

平成 27年度 全国デイ・ケア協会 調査事業

サマリ

■事業背景

平成 27 年の介護報酬改定は、通所リハビリテーションの役割に期待する内容であり大きな変革をもたらすものとなった。通所リハには、リハビリテーションマネジメントを基本として、社会参加への関わり・重度者への対応・プログラムの充実が求められている。

■目的

本事業ではこれまでと同様、通所リハの提供事業所および利用者の実態を把握する一方で、平成 27 年度の改定内容に合わせた加算や評価内容を分析し現状を検証することを目的とした。

■対象・方法

対象は、全国デイ・ケア協会に所属する通所リハビリテーション事業所および通所介護事業所とした。

アンケート調査は、事業所票と利用者個票とで構成し、利用者個票の対象は平成 26 年度の利用者調査の該当者および平成 27 年 4 月以降の新規利用者とした。

調査方法はインターネット上での回答入力とした。尚、調査対象者には、本調査の趣旨・目的、およびデータの活用方法を書面にて説明し、本調査に対する回答を持って同意したとみなした。

■調査項目

利用者の基本情報、リハマネ加算Ⅱの算定状況、利用状況、利用目的・ニーズ、提供サービス内容等を主な調査項目とした。

■結果

【回収状況】

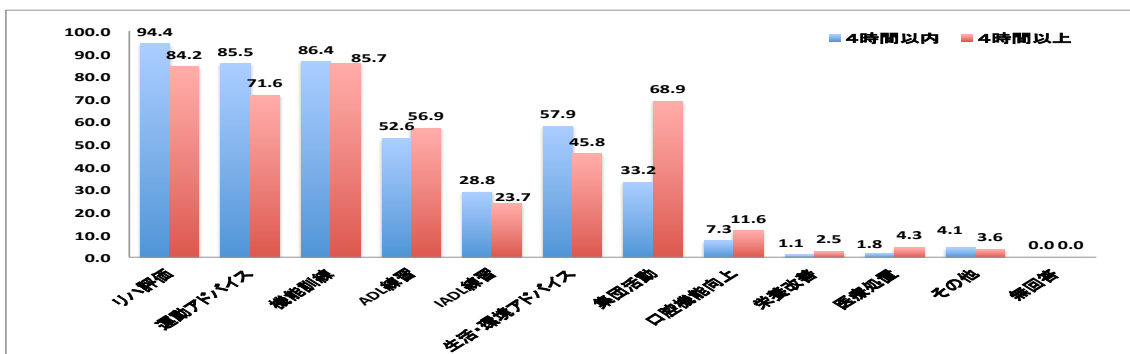
全体で 82 施設から回答を得た。また、利用者個票は 2030 票であった。

【サービス提供時間別】

提供時間毎の属性で有意な差が見られた項目は、「年齢」「主疾患」「介護度」「開始からの期間」であり、4 時間以上では、「75 歳以上」「脳血管疾患」「重度者」「1 年以上の利用者」が多かった。活動面については 4 時間以上にて「BI 80 点以内」「LSA 24 点未満」「IADL 15 点未満」が多かった。

「アセスメントから考えるニーズ」について、4 時間以内では 4 時間以上と比較して「身体機能の維持向上」が少なく「生活能力の維持向上」の割合が多い傾向が見られた。また、提供サービス内容については 4 時間以内が「リハ評価」「運動アドバイス」「生活・環境アドバイス」が多く、4 時間以上で「集団活動」が多い傾向があった（図 1）。

図 1 提供時間別提供サービス内容



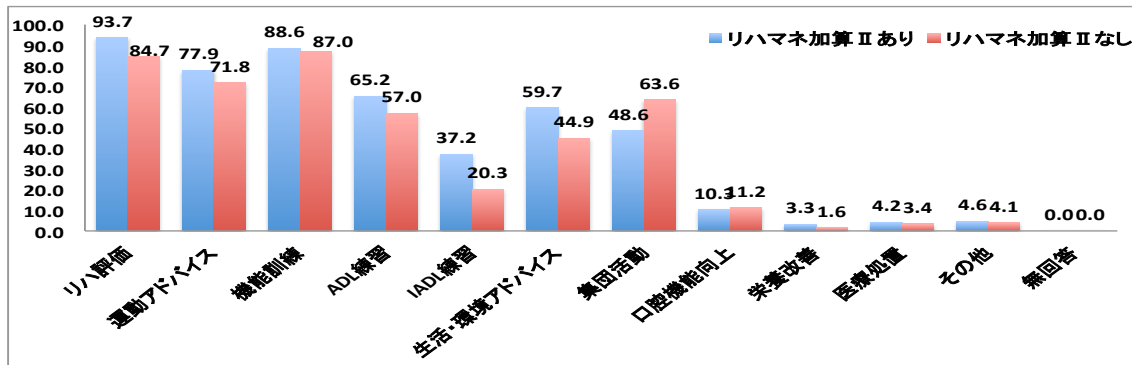
【リハマネジメント加算Ⅱ算定有無別】

リハマネ加算Ⅱを算定した利用者では「75 歳以内」「脳血管疾患」「期間 1 年以内」が多かった。活動面では LSA 25 点以内の割合がリハマネ加算Ⅱでは多かった。

「アセスメントから考えるニーズ」について、リハマネ加算Ⅱの算定利用者は算定していない利用者と比較して「身体機能の維持向上」が少なく、「生活能力の維持向上」が多い傾向が見られた。

提供サービス内容は、加算算定ありで「リハ評価」「ADL練習」「IADL練習」「生活・環境アドバイス」が多く、算定なしでは「集団活動」が多い傾向が見られた（図2）。

図2 リハマネ加算Ⅱ 算定有無別の提供サービス



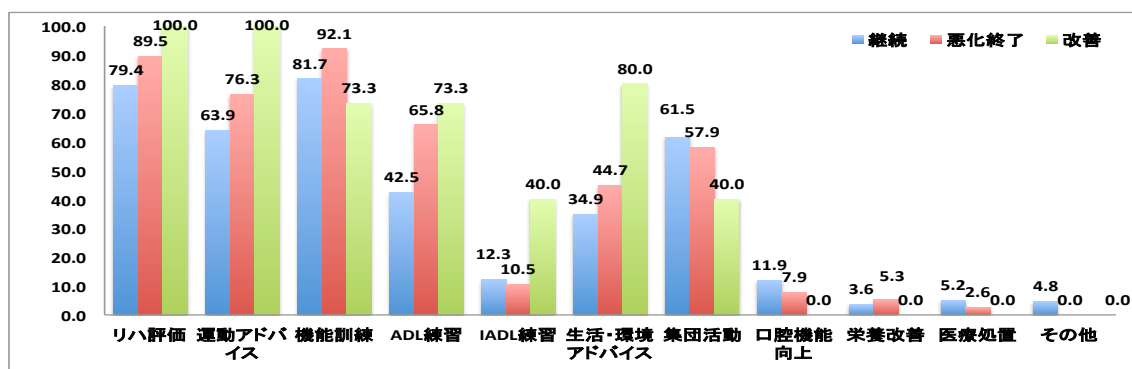
【サービス継続者・終了者別】

「改善終了」「継続」「悪化終了」の順に重度介護者の割合が多い傾向であった。また同様にBI、IADLについても「改善終了」「継続」「悪化終了」の順に点数が低い利用者の割合が多い傾向であった。

「アセスメントから考えるニーズ」については、サービス継続者・終了者共に「身体機能の維持向上」「生活能力の維持向上」が多かった。また、「改善」「悪化終了」の順に前述2項目に対する割合が高い傾向が見られた。終了者では「生活課題の解決」が、継続者では「運動習慣・継続」が若干多い傾向にあった。

提供サービス内容は、「改善」は他の2群と比較して「リハ評価」「運動アドバイス」「ADL練習」「IADL練習」「生活・環境アドバイス」が多く、「機能訓練」「集団活動」が少ない傾向が見られた（図3）。

図3 サービス継続者・終了者別の提供サービス



■結論

- 提供時間別では短時間型では軽度者、長時間型では重度者が多い傾向となっており、対象者に合わせたアプローチが展開されていた。今後さらに重度な方へのニーズに合わせた多様なアプローチの提供が求められると思われる。
- リハマネ加算Ⅱ算定者に関しては、「年齢が若い」「脳血管疾患」「開始から1年以内」の方へ算定していることが多かった。また算定者に関しては活動に対しての目標設定、サービス提供が適切に行われていた。今後リハマネ加算Ⅱの算定者に対する効果判定が重要となる。
- 改善終了者は軽度な方が多く、通所リハでは主に活動・参加への目標設定・サービス提供が行われていた。また重度な方へは多面的なサービス提供をしながら重度化を予防し、サービスを継続することも通所リハの役割である。